

2025年11月学力Cテスト社会 講評

社会科担当講師 及川

全体的な難易度ですが、『墾田永年私財法の具体的な内容』や『衆議院の優越が認められている理由』など、比較的オーソドックスな記述が多く、『いかに基本的な内容を、地理・歴史・公民の3分野で網羅できているか』という印象でした。近年の入試では『図やグラフ、写真の数の増加』や、『教科書にはない初見の図や写真を用いる』ことが増えています。『積み上げた知識を、様々な角度から応用することができるか』を問われます。

そうした中で、今回のCテストの問題は『ワークや定期テストなどで見たことがある』と思わせる内容がそろっていました。『今の自分が社会の基本的な知識をしっかりと押えられているか』を確かめる、いいテストになったのではないかと思います。

①は、世界地理からの出題でした。基本的な河川や州・国名の確認と、その地域の農作物の特色を確認するのが主な内容でした。問題数は4問と多くなく、これといった記述もありませんでした。

ポイントとしては、『国名と場所は全て網羅する』ことと、その上で『各国の農業・工業の特色を整理する』ことが重要です。世界地理の勉強をするときには、『地図を参照しながら勉強する』ことを心がけてみてください。

②は、日本地理からの出題でした。問3・問4などの、気候と風の関係性を聞く問題は頻出ですので、ワークなどでよく出る内容を今一度確認しましょう。『冷害の原因となる風はやませ』、『日本海側・太平洋側にそれぞれ雨・雪をもたらすのは季節風』など、それぞれの因果関係をしっかりとっておくことが大切です。特筆すべき問題は、問5のような、『人口・面積・製造品の出荷額などの要素から、データが表す都道府県を答えさせる問題』です。こうしたデータを使った問題は、『明らかに目立つ数字に着目すること』が大切です。例えば、出題された①のデータでは、他と比べて明らかに漁業生産量の割合が低くなっています。そこから、『ほとんど漁業がおこなわれていない＝内陸の県の可能性が高い』と推測し、ア～オの県の中で唯一内陸のウ（長野県）を選ぶことができれば正答が見えてきます。日本地理の勉強のポイントとしては、世界地理と同様、『各都道府県の農業・工業の特色』をおさえるとともに、『人口減少』や『後継者の減少』などの、日本全体が抱える課題と結びつけて勉強していくことが大切です。

③は歴史から、奈良～明治からの主な人物や出来事をたずねる内容でした。問題自体は基本の用語を確認するものが多かったものの、その範囲が広く、バランスよく学習できているかが問われた印象です。そうした中で、問5の『寛政の改革の内容』を選択肢から選ぶような問題は要注意です。江戸時代にはほかにも、8代将軍徳川吉宗の『享保の改革』や水野忠邦の『天保の改革』、具体的な名称はないものの、重商政策をすすめた田沼意次の改革など、多くの政治・経済面の変化がありました。それらの特徴と、後の影響をしっかりと整理しておきましょう。また、問6のような、近代以降の様々な条約についての問題もよく出題されます。『いつのタイミングで』『どの国と』『どのような内容』だったかを意識して勉強することがポイントです。

④も歴史から、主に幕末～昭和までの、比較的新しい時代の内容が問われる形でした。問1のような、『歴史的な機関が現在の都道府県のどこだったか』を問う問題も、地図とともに頻出する内容となっています。『大宰府＝福岡』や『出島＝長崎』『蔵屋敷＝大阪』など、『キーワードから即時に場所を導く力』が求められました。地図と照らし合わせて、チェックしましょう。また、問3のような並び替え問題は歴史分野の難関かつ、歴史分野の醍醐味だといえます。大切なのは、『事件の因果関係』をしっかりと整理すること

です。実際の問題を見ていくと、1～4までの内容は全て、『幕府・諸藩が外国勢力とどう向き合ったか』という、江戸幕府終焉間近の出来事になっています。それを踏まえて、まずは①日本に外国勢力が接近している②それに対する幕府の対応③諸藩・尊王攘夷を志す志士からの幕府への不満と、それを表す行動④攘夷の厳しさを悟り、諸藩が連合する動きを見せる⑤諸藩連合（薩長同盟）による倒幕へという流れをイメージしましょう。そのうえで選択肢を見ていくと、1. ペリー来航 2. 桜田門外の変 3. 薩長同盟 4. 日米修好通商条約 の4つは、『1→4→2→3』の順番になることが見えてきます。このように歴史の勉強をする際は、『出来事の関係性』を意識しながら学習を進めていきましょう。

⑤は公民からの出題でした。内容は憲法や国会・内閣の基本事項となっています。ここでもやはり、『国事行為の内容』や『国会の種類』、『内閣不信任決議以後の流れ』など、頻出する内容がそろっています。今回のテストを機に、改めて国会・内閣・裁判所の三機関の役割の違いを整理しておきましょう。

⑥も公民からの出題でした。内容は新しい人権～地方自治までとなっています。ここでの記述は『衆議院の優越』の理由についてでした。『任期が短く、解散もあるため、国民の意見をより反映させやすい』といった内容は、オリジナルテキストでもしっかり穴埋めとなっており、各講師が念入りに強調していた場所になるため、正答率は高かったのではないかと思います。今後の学習のポイントとしては、今回出題はされなかったものの、頻出する地方自治の直接請求権についての数字や請求先に関する点は必ず押さえておきましょう。特に定期テストが2期制になっている中学では、新しい人権～地方自治までの内容が次回の定期で聞かれる可能性が高いです。今回のCテストで聞かれた内容の復習と、同じ範囲のオリジナルテキスト・学校ワーク等の見直しを是非行いましょう。

〈総評〉

今回のCテストは基本の力を問われる内容でした。今後の社会科の学習に関しては、入試の過去問をチェックすることも非常にいい練習になります。冒頭でも触れましたが、最近の入試で求められる力は『応用力』です。実際にあった問題を例として挙げると、正距方位図法の地図が、『ほぼ北極中心』の形で出されたものがあります。大抵の正距方位図法は『日本』が中心になっているので、その先入観で挑むと、驚かされてしまうと思います。今回のテストの復習はもちろん、様々な問題に触れて、『どう聞かれても、積み重ねた知識から解答を導く』訓練をしていきましょう。

〈中3生へのメッセージ〉

今回のテストで、ひとまず学力テストには区切りがつきます！これまでの反省・成長の実感を踏まえ、いよいよの正念場を迎えていきます！まずは11月22日の11月道コンでベストを尽くしましょう！特に社会に関しては、ここから出題数・ページがさらにボリュームアップします。『自分の知識を素早く引き出して、解答を導く力が求められます。勿論中3にもなると、その知識量は膨大なものになります。

では、その膨大な内容を整理するうえで、少しでも心がけて欲しいことを最後にお伝えします。これからの学習で心がけてほしいのは、『単純に正答・誤答だったからといって一喜一憂』するのではなく、『なぜ自分の答えが正答・誤答だったのかの根拠を明確にする』という点です。例えば、『正しいものをア～エの記号から1つ選ぶ』タイプの問題。そういった問題を解く際に、『正答以外の記号がなぜ間違っているのかを考える』ことは勿論、『他の選択肢はどういう時代・内容で、どういう時に聞かれるのか考える』ことが大切です。そして、『時代や内容、関係する人物、年号などの情報を、選択肢の横に書き出し、教科書を片手に参照しながら勉強する』ことを実践してみてください！

その積み重ねが、確かな正答と自信に繋がっていきます！

3回にわたる学力テスト、本当にお疲れさまでした！